



**日本オラクル株式会社**

2023年5月期第2四半期決算説明会

2022年12月20日

## イベント概要

---

[企業名]	日本オラクル株式会社	
[企業 ID]	4716	
[イベント言語]	JPN	
[イベント種類]	決算説明会	
[イベント名]	2023 年 5 月期第 2 四半期決算説明会	
[決算期]	2023 年度 第 2 四半期	
[日程]	2022 年 12 月 20 日	
[ページ数]	14	
[時間]	16:30 – 17:10 (合計：40 分、登壇：9 分、質疑応答：31 分)	
[開催場所]	インターネット配信	
[登壇者]	2 名	
	取締役 執行役 最高財務責任者 (CFO)	エス・クリシュナ・クマール (以下、シヴァラマン)
	IR 部 ディレクター	西尾 有貴 (以下、西尾)
[アナリスト名]*	JP モルガン証券	千葉 馨
	シティグループ証券	鶴尾 充伸
	BofA 証券	金子 裕紀
	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	田中 秀明
	SMBC 日興証券	菊池 悟

## 登壇

---

西尾：皆様、こんにちは。日本オラクル IR の西尾です。ただ今より、日本オラクル、2023 年 5 月期第 2 四半期決算説明会を開催いたします。

# ORACLE

**2023年5月期(FY23)第2四半期 業績補足資料**  
2nd Quarter, Fiscal Year ending May 2023 (FY23) Business Results  
(Supplemental Information and Historical Facts)  
2022/12/20

1. 売上高対前年同期比 Revenue YoY
2. 営業利益対前年同期比 Operating Income YoY
3. 直近業績要約 Summary of Recent Operating Results
4. セグメント別データおよび営業経費 / Segmental Info and Opex
5. 貸借対照表要約 Summary of Balance Sheet
6. 会社概要 Corporate Overview

### 日本オラクル株式会社

Oracle Corporation Japan (TSE 4716)

<http://www.oracle.com/jp/corporate/investor-relations/index.html>

**(注意事項)**

本資料に含まれている業績予想等、歴史的事実以外の事象については、本資料の発表日において入手可能な情報から判断された一定の前提に基づき日本オラクル株式会社が策定したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があることをご承知ください。

**(Cautionary Statement)**

Statements in this document with respect to Oracle Corporation Japan(OCJ)'s current plans, estimates, strategies and beliefs, and other statements that are not historical facts are forward-looking statements about the future performance of OCJ. These statements are based on OCJ's assumptions and beliefs in light of the information currently available to it. OCJ cautions you that a number of important risks and uncertainties could cause actual results to differ materially from those forward-looking statements.

ディスクレーマーにつきましては、決算短信、および業績補足資料の注記に記載のとおりです。

本日は、執行役、最高財務責任者（CFO）、エス・クリシュナ・クマールより、当期の業績の概要を説明させていただき、次に Zoom の Q&A 機能を用いて、皆様からのご質問をテキストでお受けいたします。

それでは、業績概況につきまして、エス・クリシュナ・クマールより説明させていただきます。

**シヴァラマン\***：皆様、こんにちは。日本オラクルの 2023 年第 2 四半期の業績について説明させていただきます。

第2四半期におきまして、お客様のクラウドへのトランスフォーメーションにおける進捗を継続的に見ていくことになりました。さまざまなお客様においてクラウドの展開が行われており、特に基幹系システムの近代化を図る意味での、クラウドのインフラの構築が行われています。

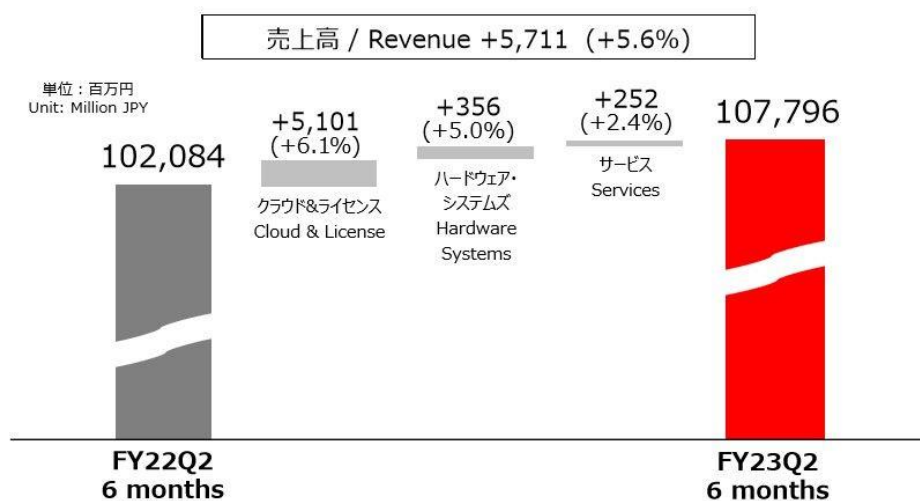
そしてさまざまな業種の手のお客様において、特に製造業、また公共機関などでのクラウドの展開が見られています。

また、この四半期におきまして、アプリも順調に伸びている状況となっております。そして、ERP、HCMのビジネスの状況は堅調に推移しています。さまざまな業界において多くのお客様の案件を勝ち取り、そしてさまざまなビジネスにおいて、大手のお客様の獲得にも至っています。

そして、ライセンスのビジネスにおいても大規模プロジェクトを勝ち取っており、第1四半期と比べて非常に状況が好転している状況となっております。

また、ご存じかと思いますが、OCIはデジタル庁において2023年度、ガバメントクラウドということで選択していただいております。さらなる政府のデジタル化を推進することで、投資額が増えており、また大規模プロジェクトの展開が行われており、中期また長期において需要がこれによって刺激されるものだと考えています。

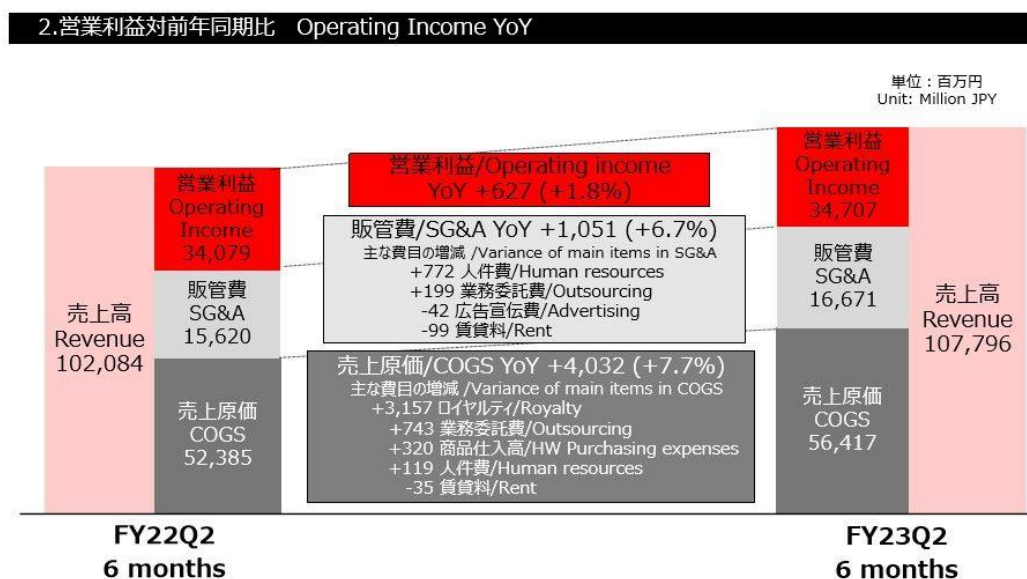
### 1.売上高対前年同期比 Revenue YoY



では、いくつか数字をご紹介していきたいと思ひます。

まず売上高です。1,077億9,600万円となつておひまして、前年対比5.6%の伸びとなつておひます。これはクラウド&ライセンスの売上が堅調に推移したことによるものとなつておひ、第2四半期の売上高は3カ月間伸びまして、10%近いものになつておひます。クラウドサービス&ライセンスサポートの売上高は、698億6,400万円となつておひ、5.5%の伸びとなつておひます。トータル  
の売上高におひて、64.8%を占めておひます。

Fusion ERPのクラウドの売上高は約20%伸びておひ、またNetSuite ERP、クラウドの売上高は約30%伸びておひます。また、インフラのコンサンプションの売上も非常に強い勢いがあり、これにはAutonomous Databaseも入ります。また、クラウドサービスのバックログも堅調に伸びておひます。



営業利益は347億700万円となつておひ、2.3%の伸びとなつておひます。純利益は241億5,800万円となつておひ、3カ月で2%伸びておひる状況です。

売上高、そして三つのマージン全てにおいて、第2四半期は記録的な額となっております。前回もお話ししていますが、パイプラインが非常に強力になっており、ライセンスのプロジェクトの多くを前倒しで勝ち取っている状況になっておりまして、非常に高い回復力をここで見ております。

では、いったん戻したいと思います。

**西尾**：1点だけ、修正いたします。四半期純利益、3カ月間で2.0%増ではなく、6カ月間で2.0%増です。修正いたします。失礼いたしました。

## 質疑応答

---

**西尾 [Q]**：それでは、これより皆様からのご質問をお受けいたします。

本説明会は、証券市場関係者の皆様を対象としておりますので、プレスの方々のご質問はお控えいただきますよう、あらかじめご了承ください。

Zoom システムの Q&A より、会社名、氏名、ご質問 3 問までをご入力ください。社名の記載がないご質問はスキップいたしますので、ご了承ください。私が 1 問ずつ読み上げ、CFO、KK より回答いたします。重複するご質問は割愛いたします。

それでは、質疑応答を開始いたしますので、ご入力をお願いいたします。

JP モルガン証券の千葉様よりご質問です。

1 点目、クラウドサービスの売上高が QoQ で減収となっております。季節要因と考えてよいのでしょうか。ほかの理由はありますか。

**シヴァラマン [A]\***：ご質問ありがとうございます。

おっしゃるとおり、これは季節要因が影響しております。Q1 において大型の案件が集中する状況になっておりますので、それを受けてのことになります。おそらく、この状況は数年間続くと考えております。

比較をする意味では、前年の同じ四半期との比較をしていただくといいかと思えます。

**西尾 [Q]**：それでは、千葉様より 2 問目です。

ライセンス売上高は、大型案件によって大きく成長したとのことでした。下期以降のパイプラインはいかがでしょうか。このモメンタムは続くのでしょうか。

**シヴァラマン [A]\***：パイプラインは依然として強力なものになっております。われわれのビジネスですが、年間でぜひ見ていただきたいと思っております。下期におきましても、非常に強力なプロジェクト、強力な取引が予定されていますが、ここで 25%伸びますといった数字にコミットすることはできません。以前お出ししています、ガイダンスをご覧いただければと思います。

**西尾 [Q]**：それでは、千葉様より 3 点目のご質問です。

1 人当たり人件費が大きく上昇しています。この背景と継続性を教えてください。

**シヴァラマン [A]\***：常に市場から優秀な人材の採用をすることを心がけています。そして採用する際には市場、マーケットのレベルに応じた採用を進めています。時として、新たに採用した人が退社した人のコストよりも高いこともあるわけなのですが、そういった意味で若干上がっている状況になっています。

またわれわれ、売上高が順調に推移していますので、そういった意味でのコミッションも当然上がっている状況になります。

**西尾 [Q]**：ありがとうございました。

続きまして、モルガン・スタンレー証券のセガワ様よりご質問です。

下期の計画について確認させてください。通期計画の売上高、ミッドポイントである 2,200 億円を前提といたしますと、下期の売上高の増収率がマイナス 0.3%の減収になると試算できます。下期の売上高に、何かリスクがあるのでしょうか。

**シヴァラマン [A]\***：お伝えしましたように、われわれは年間ガイダンスを出してしまして、その解釈はさまざまあり得るのかと思いますが、上期が順調だったことで特にガイダンスの変更はわれわれの場合は入れていません。

繰り返しになりますが、パイプラインも順調に育っていますし、また大型案件も入ってくる予定となっています。またクラウドのビジネスは勢いづいていますので、全てどのようにして物事が実行されるのかにも関わってきますが、下期も順調に推移することを考えております。

**西尾 [Q]**：セガワ様より 2 問目です。

デジタル庁向けのガバメントクラウドについて、可能であれば今後の需要や見通し、案件の獲得時期など、業績の貢献時期について現時点で想定できることをご回答ください。

**シヴァラマン [A]\***：ありがとうございます。

デジタル庁のこのデジタル化のプロジェクトは、日本政府にとって非常に大規模なプロジェクトであり、IT 企業であればぜひ参画したいものになります。

プロジェクトは当然複数存在することになりますので、われわれは一つ、二つ獲得したわけなのですが、あくまでもそれは日本政府にとっては第 1 歩目になります。そして、まずはそのプロジェクトに参加する資格を得ることが重要になりますが、そういった意味でデジタル庁の企業リストに載ることが重要であり、われわれは既にそのリストに載っております。



また、われわれは、日本の地元のシステムインテグレーター、SIの企業と密に連携をとっています。そして、それによってこのプロジェクトに参加することになるわけなのですが、ここ何年も前から日本のパートナーとは密に連携をとってきましたので、それを今後も継続していきながら、さらなるプロジェクトへの参画を目指すこととなります。

**西尾 [Q]**：セガワ様より3問目のご質問です。

従業員数について教えてください。季節性を考えれば、11月は減少してもおかしくないとは思いますが。ただ、前年比微減であり、従業員数が増加していく確度が持ちにくい印象です。従業員数の確保について、どのような手応えを感じていらっしゃいますか。競合との獲得競争は厳しいのでしょうか。

**シヴァラマン [A]\***：われわれはリーンな組織になっていますが、非常に優秀な人材をそろえています。また、不必要に採用を行うことはしておりません。ということで、人材を採用する際には適正な組織の規模を念頭に採用しています。

また、市場から、あるいは競合他社から新たに人材を採用することに関して、問題視は特にしていません。

**西尾 [Q]**：ありがとうございます。

続きまして、シティグループ証券、鶴尾様よりご質問です。重複しているご質問はスキップいたします。

製造業、非製造業、官公庁、SMBの需要見通しをそれぞれ教えてください。

**シヴァラマン [A]\***：オープニングでもお伝えしましたが、製造業における強い需要が見られますし、また通信業界の需要も堅調な状況となっていますし、官公庁に関しても同様のことが言えます。ということで、顧客基盤としては非常に広範囲にわたるお客様となっております。この状況が急に止まってしまうことは直近ではないと考えています。

また、SMB市場に関しては、この四半期で大きな伸びを見えています。当然、それも数字を後押ししていますので、そういった意味で正しい方向に物事が向かっていると考えております。

**西尾 [Q]**：ありがとうございます。

続きまして、鶴尾様より2問目です。

円ドルの為替変動が昨今厳しい中で、御社の製品価格値上げの可能性についてお教えてください。

**シヴァラマン [A]\***：既にお客様には価格改定のお知らせをこの四半期に行っていますので、この状況については対応済みとなります。

**西尾 [Q]**：ありがとうございます。

続きまして、BofA 証券の金子様からのご質問は重複しているので割愛させていただきます。

次に、三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券、田中様よりご質問です。

ライセンス販売の大規模プロジェクトはデータベース、もしくは ERP、何が牽引したのでしょうか。

**シヴァラマン [A]\***：ここ数年間、ERP のライセンスの部分は縮小しています。ERP ライセンスはクラウドを通じての提供となっていますので、そのような状況になっていますが、ライセンスセールの 90%はデータベースになります。

**西尾 [Q]**：ありがとうございます。

続きまして、田中様より 2 問目です。

Q2、3 カ月の GPM、グロスマージンでしょうか。粗利が悪化した理由を教えてください。

**シヴァラマン [A]\***：一つの四半期でマージンの数字をあまり細かく見る必要はないと思っております。全体としてマージンは 30%台前半になるだろうと予想していますので、そういった意味でこの進捗には満足できるのではないかと思います。

ということで、繰り返し、一つの四半期でマージンを細かく見ることはしておりません。

**西尾 [Q]**：ありがとうございます。

続きまして、SMBC 日興証券の菊池様よりご質問です。

ハードウェア・システムズの増収要因を教えてください。ソフトウェアライセンスの大型案件に伴うものでしょうか。

**シヴァラマン [A]\***：この四半期に関しては、特にソフトウェアライセンスに伴うものにはなっておりません。一般的にはハードウェアをお客様が購入してくださる理由は、オラクルデータベース、またはオラクルのプロダクトは、オラクルのハードウェアで非常にパフォーマンス良く機能することでご購入いただいております。

**西尾 [Q]**：続きまして、菊池様よりハードウェア関連で 2 問目です。

ハードウェア・システムズ仕入原価が、前年同期比で増加。原価率が高い売上高が増加したのでしょうか。

**シヴァラマン [A]\***：二つほど要因があると考えておりますが、まずは為替の状況が多少影響したことと、二つ目にはグローバルのサプライチェーンの状況は、まだ非常に困難を伴うものになっていますので、そういった意味で調達コストが押し上げられたことによるものだと考えております。

**西尾 [Q]**：ありがとうございました。

続きまして、BofA 証券、金子様よりご質問です。

値上げ幅について、何パーセントの値上げでしょうか。データベース、ERP など、製品ごとに違いがあれば教えてください。

**シヴァラマン [A]\***：まずプライスリストに関しましては、弊社ウェブサイトで公開していますので、どなたでもご覧いただけるものとなっています。また、全ての製品、同じだけの価格改定となっていますので、製品ごとに異なる率になっているわけではありません。

**西尾 [Q]**：ありがとうございます。

続きまして、シティグループ証券、鶴尾様よりご質問です。

価格改定の影響は、この Q2 にはあったのでしょうか。

**シヴァラマン [A]\***：影響は特に出していません。特に影響はないと見ております。通常の価格改定となるわけなのですが、一部のお客様に関しては、駆け込み需要等はありませんでしたが、下期においても大型のプロジェクトが予定されていることを見ますと、特に影響は出ているとは見ておりません。

**西尾 [Q]**：鶴尾様より、価格改定に関して 2 問目です。

値上げに関しては、ガイダンスに既に織り込まれているのでしょうか。

**シヴァラマン [A]\***：ガイダンスを作成した時点では、価格改定については特にこちらとしては知っている状況ではなかったのですが、実際このような状況になりましたが、通年のガイダンスを変更する予定はございません。

**西尾 [M]**：ありがとうございます。

以上で、ご質問は今受けておりませんが、いかがでしょうか。

では、ご質問がないようですので、こちらをもちまして 2023 年 5 月期第 2 四半期決算説明会を終了いたします。

本説明会の内容は、本日より 1 カ月間、メールにてご案内の方法にて聴取いただけます。追加のお問合せなどございましたら、IR 部、西尾、大塚までお願いいたします。

本日はご参加いただき、ありがとうございました。

[了]

---

### 脚注

1. 音声が不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す
3. 本トランスクリプトは同時通訳音源を書き起こした内容を含む
4. \*は時通訳の書き起こしを示す